

全国学力・学習状況調査の結果について

本年4月17日に6年生を対象に全国一斉で実施された「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。この調査は、児童の学力学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。

今年度は、国語・算数・理科の3教科で実施されました。平均正答率は以下に記載の通りですが、各教科の点数（平均正答率）だけに注目するのではなく、この調査で確認された各取組の成果や課題を学校・家庭・地域で共有し、必要な取組をさらに充実させていきたいと考えています。

◆教科に関する調査結果より

各教科の平均正答率（％）



	国語	算数	理科
本校	82	74	72
三重県	66	57	56
全国	66.8	58.0	57.1

平均正答率をみると、国語で全国平均を15.2ポイント、算数で16ポイント、理科で14.9ポイント上回る結果となりました。本校では、これまでの学力調査の結果で、平均正答率の数値に関わらず「記述で回答する問い」（記述式）の正答率が低く、継続的な課題となっていました。昨年度に引き続き、記述式の問題に関する正答率は、全国平均を上回る結果となりました。記述式に関しては、短時間で身に付くものではなく、継続的に課題に取り組むことが必要です。今回の結果はこれまでの取組の積み重ねによるものであり、課題として意識しながら、日々の授業を大切に継続して取り組んできた成果ともいえます。

しかしながら、今回の結果から見えてきた課題（本校の弱み）もあります。今後も、引き続き、「書くこと」を意識させながら、確かな学力の定着を図る取組を続けていきたいと考えます。

また、今年度も無解答は、0%でした。これは問題に対して最後まで粘り強く取り組んでいることの表れでもあり、阿坂小の大きな強みの一つと捉えています。

◇各教科の概要◇【課題（弱み）】

●国語

※目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題。

本校23.1％ 三重県39.4％ 全国40.8％

※事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題。

本校53.8％ 三重県48.3％ 全国51.3％

●算数

※目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題。(記述式)

本校 38.5% 三重県 31.6% 全国 31.0%

※分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。(記述式)

本校 38.5% 三重県 21.7% 全国 23.0%

●理科

※身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題。

本校 0% 三重県 9.5% 全国 10.6%

問題：アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1～4までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。

1. 電気を通し、磁石に引き付けられる。
2. 電気を通し、磁石に引き付けられない。
3. 電気を通さず、磁石に引き付けられる。
4. 電気を通さず、磁石に引き付けられない。

●質問紙調査より

「あてはまる」率が高い(肯定的回答) 本校 100%

・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

(三重県 83.3% 全国 81.4%)

◇今後の取組について◇

★学校では・・・

・基礎基本の充実

日々の授業を大切に、基礎基本の定着を目指します。プリント、ドリル、小テストなど、基礎基本の学習を丁寧に取り組み、くり返し、継続していくことで確かな学力につなげていきます。

・授業改善

授業や学校生活すべてを通して、自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができるような話し方や書き方(まとめ方)を身に付けられるようにしていきます。聞かれていることに的確に答えられているかどうかは、教師の関わり方も重要なポイントになるため、授業改善の視点でも取り組んでいきます。また、タブレットを活用した学習についても、授業や家庭学習での効果的な活用をさらに深めていきます。

・家庭学習の充実

各学年に応じた宿題を設定するとともに自学の取組も進め、自ら学ぶ、主体的な学習を習慣付けていきます。また、学習(読み書き)の基盤といえる読書習慣も身に付けていくようにします。

★家庭では・・・

- ・ 規則正しい生活リズムの定着(睡眠時間の確保、朝食を必ずとる等)「早寝・早起き・朝ご飯」
 - ・ 家庭学習の習慣付け(学習時間、テレビ・ゲームの時間等のルールを決める等)
 - ・ 社会とかかわる力を身に付ける(あいさつをする。地域の行事に参加する。新聞記事、ニュースや将来のことを話題にする等)
- 引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

学校と家庭、地域が一体となって、

未来の宝である子どもたちの育成に力を尽くしていきましょう。